

本場の生んだ世界のブランド



守礼堂



karatejournal

守礼堂チャンネル

検索



facebook

ミゲールの



世界の

沖縄空手事情

2



2005年7月、駐日イスラエル大使エリ・コーヘン氏が来沖し、沖縄で開催されたイベント「シャローム!イスラエル」で空手の演武を披露したことを知る人はかなりの空手通だろう。同大使は松涛館空手最高師

沖縄固有の武術鍛錬

ミゲール・ダルース 1971年仏生まれ 14歳で現地の道場に入門、22

イスラエル 体心館



範としても知られ、演武はイスラエルと空手の強いつながりを示すものだった。

1948年に建国されたイス

イスラエルの道場でヌンチャク対棒の組手を行うイツィック・コーヘン氏(左) 提供

ラエル。この国には松涛館などの本土系の空手が多く存在しているが、一方で空手の本場・沖縄の小林流、剛柔流、上地流や古武道など10の流派も定着し、活動している。

主要都市の一つテルアビブには、沖縄固有の武術を研究する「体心館」という道場がある。館長は同市出身のイツィック・

コーヘン氏だ(上記大使と親類ではない)。現在54歳。コーヘン氏は75年ごろ、糸東流三身館の門をたたいた後、約35年間、県出身の故摩文仁賢和を流祖とする本土系四大流派の一つとされる糸東流の道歩んだ。

イスラエルの3年間の兵役義務を終えた当時20歳のコーヘン氏は、エンジニアリングの学問に進みハイテク業界で成功し

た。その間も稽古を続け、89年故郷で道場を開設した。

そして99年には沖縄の古武術にも目を向けた。きっかけは、ハイファ市で指導していた同門のエフィー・シユラエン氏が、琉球古武道信武館の赤嶺浩館長とポール・バーミングリオ氏を招き、主催した同年の古武道セミナーだった。セミナーは回国における、琉球の古武術普及の始まりともいえる。

2006年、ビジネスと空手道の両立に困難を感じたコーヘン氏は難しい判断を下し、空手と古武術を人生の道に選んだ。そして11年、沖縄の伝統の技に打ち込みたいと、糸東流から小林流への転向を望んだ氏は、赤嶺氏の紹介で比嘉稔氏の小林流究道館に入門した。

沖縄の武術の両輪のごとくである空手と古武術に人生をささげたコーヘン氏は、15年前から定期的に沖縄を訪れ、最近ではほぼ毎年来沖している。また10年間、個人メモや小論を重ね、今年4月に『Karate Uchinaidi 沖縄手』を題とした620ページの書籍を発行した。技術集ではなく、琉球の歴史、文化や地政学などにのっつた沖縄空手のルーツと進化の研究論としてまとめられている。

心技体の鍛錬は道場で行うものとして、現在コーヘン氏は、テルアビブで2カ所の道場で約60人に琉球古武道と小林流を精力的に指導している。弟子らは師と共に汗を流し、沖縄の伝統武術の技と精神を磨く。